

## ショートコメント vol.183 (2020年9月28日)

テーマ：世界の新型コロナ感染者数は3千万人を突破  
 ～欧州やアジアで増加が目立つも、第1波とは感染の中心地が異なる～

### ●世界的な感染状況

新型コロナウイルスの感染について、世界的な拡大が続いている。

WHOの発表によると、9月21日時点での感染者数は世界全体で3千万人を突破。前週比でも初めて200万人の増加を記録した。世界的には、感染の収まる気配がまだまだみられない。

新たな感染者数を地域別にみると、増加が顕著となっているのはアジア（中東を除く）と欧州である（図表1）。米州（北中米、南米）は、感染者数そのものは多いものの、トレンドは8月以降、下降気味となっている。

感染の再拡大の動きについては、直近では欧州の状況が注目を集めている。フランスやスペインでは営業規制の再強化といった動きが始まっており、10～12月の経済成長の鈍化への懸念も高まっている。日本にとっては、輸出環境の悪化などに直結することから、目が離せない状況といえよう。

ただし、足元の感染の拡大は、3～4月の感染第1波とは感染の中心地が異なっている。その辺りは、今後の経済的な影響を予想する上でも、しっかりと把握しておく必要があるだろう。

### ●欧州の状況

まず、直近で注目を集めている欧州の状況であるが、新たな感染者数の推移は図表2のとおりである。

3～4月はスペインやフランス、ドイツ、イタリア、英国といった先進国が中心であったが、足元はスペインやフランスに加えて、ロシア、イスラエルといった、先進国以外の感染の拡大が目立つ。足元ではウクライナやチェコなどの感染も多い。

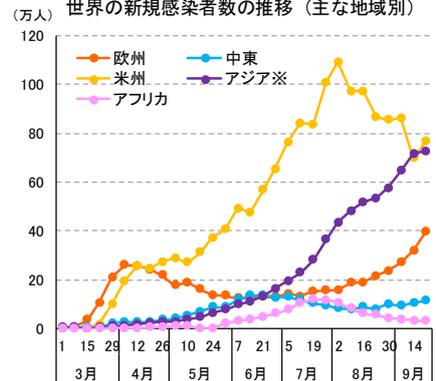
第1波との比較でいえば、ドイツ、イタリアが入っていないことで、欧州全体に与える経済的な影響は、かなり異なったものとなるだろう。特に、ドイツが入っていない点は大きな違いとみられる。仮に同国経済の順調な回復が続くようであれば、欧州全体での10～12月の大きな落ち込みは回避できる可能性もあるのではないかと。

### ●米州の状況

さらに、米州の状況も同様で、第1波とは感染の中心地に違いがみられる。

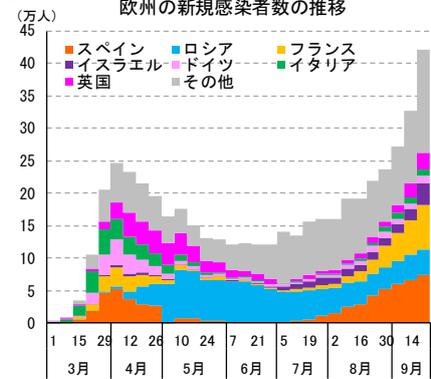
図表3のとおり、3～4月は米国がほぼ全体を占めたが、その後はブラジルで感染が進んだため、足元は米国とブラジルの2か国で全

【図表1】 世界の新規感染者数の推移（主な地域別）

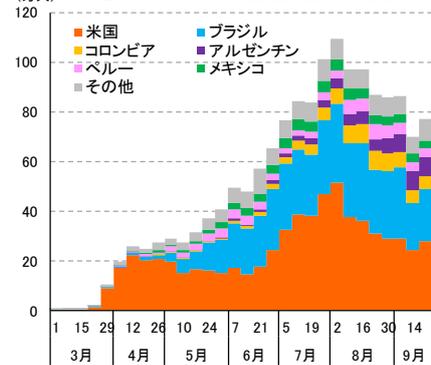


（出所）WHO「Situation reports」、以下同じ  
 ※アジアは中東を除くほか、オセアニアを含む

【図表2】 欧州の新規感染者数の推移



【図表3】 北中米、南米の新規感染者数の推移



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

体の約7割を占めている。そのほか、コロンビアやアルゼンチン、ペルーも一定の割合を占めるなど、欧州と同様、先進国以外の比率が高まっている。

今のところ、米州の新規感染者数は7月をピークに減少傾向にある。また、米国単独でも同様の状況にあるため、欧州のような差し迫った懸念はないといえよう。ただし、米国の大統領選が迫る中、関連イベントをきっかけに感染が拡大する可能性は否定できない。

## ●アジアの状況

一方、アジア（中東を除く）では、欧州と同様に感染の拡大傾向がみられる（図表4）。

その大きな特徴としては、大半をインドが占めている点である。アジアの直近の新規感染者数は73万人に上るが、そのうちインドは65万人と9割を占める。結果として、世界全体でも新規感染者数のトップはインドとなっており、世界の3割を占めるという状況である。

実際にはインド以外、特に東南アジアを中心に感染が広がっている。そこで、インド以外の新規感染者数の推移をみたものが図表5である。直近ではインドネシアとフィリピンでの感染が目立つ。それに加えて、バングラデシュやネパールでの感染も広がっている。その一方、日本はここへきて落ち着いた動きとなっている。

アジア全体の状況としては、やはりインドでのさらなる感染拡大が懸念されるほか、東南アジアを中心とした動きにも注意が必要といえよう。

## ●まとめ

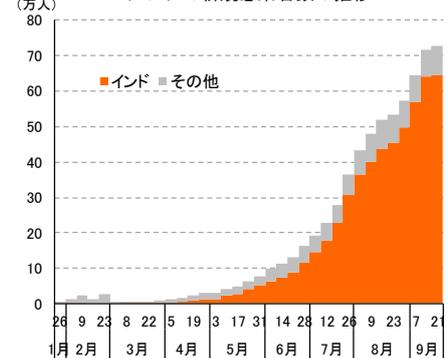
ここまでみてきたとおり、感染の再拡大が目立つ欧州、アジアのほか、米州についても、拡大の中心は新興国である点が大きな特徴といえる。

一部の先進国でも拡大はみられるが、経済活動への規制の動きは第1波と比べても緩やかであることから、たちまち世界経済が2番底に陥る懸念は低いとみられる。もちろん今後の感染状況次第ではあるが、実質的な影響としては、最悪期からの回復ペースの停滞という形になるのではないかと。

とはいえ、これから秋と冬を迎える。北半球に位置する欧州を中心に、予想以上の感染となる可能性もあり、フランスやスペインのほか、ドイツ、イタリア、英国といった国々の感染状況には注意が必要となる。また、米国についても、大統領選に関連したイベントによる感染拡大に注目が集まる。

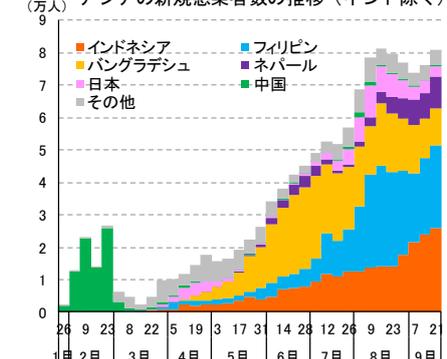
加えて、日本では10月以降、外国人の入国規制の緩和が始まる見通しである。観光目的以外の、長期滞在者を中心に受け入れを始めるとの事で、その影響が注目される。入国後の2週間の隔離などが前提といわれるものの、世界的に感染の拡大が続く中での決定であり、詳細な対応方法の発表が待たれる。

【図表4】 アジアの新規感染者数の推移



※アジアは中東を除くほか、オセアニアを含む

【図表5】 アジアの新規感染者数の推移（インド除く）



※アジアは中東を除くほか、オセアニアを含む

本件照会先：大阪本社 荒木秀之  
TEL：06-6258-8805 mail：hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。